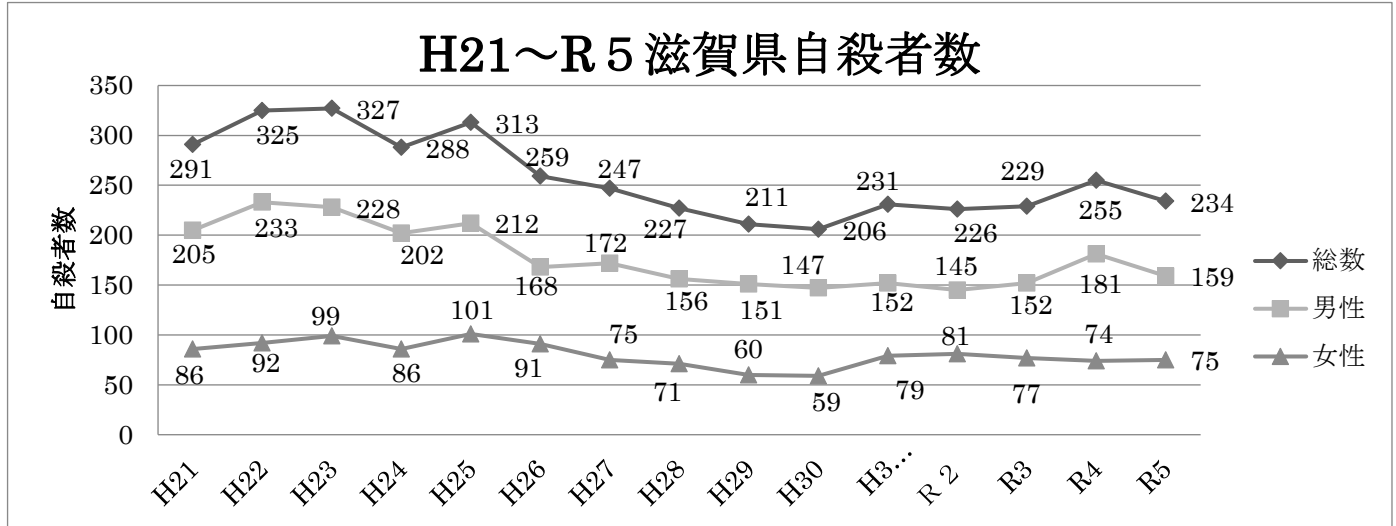
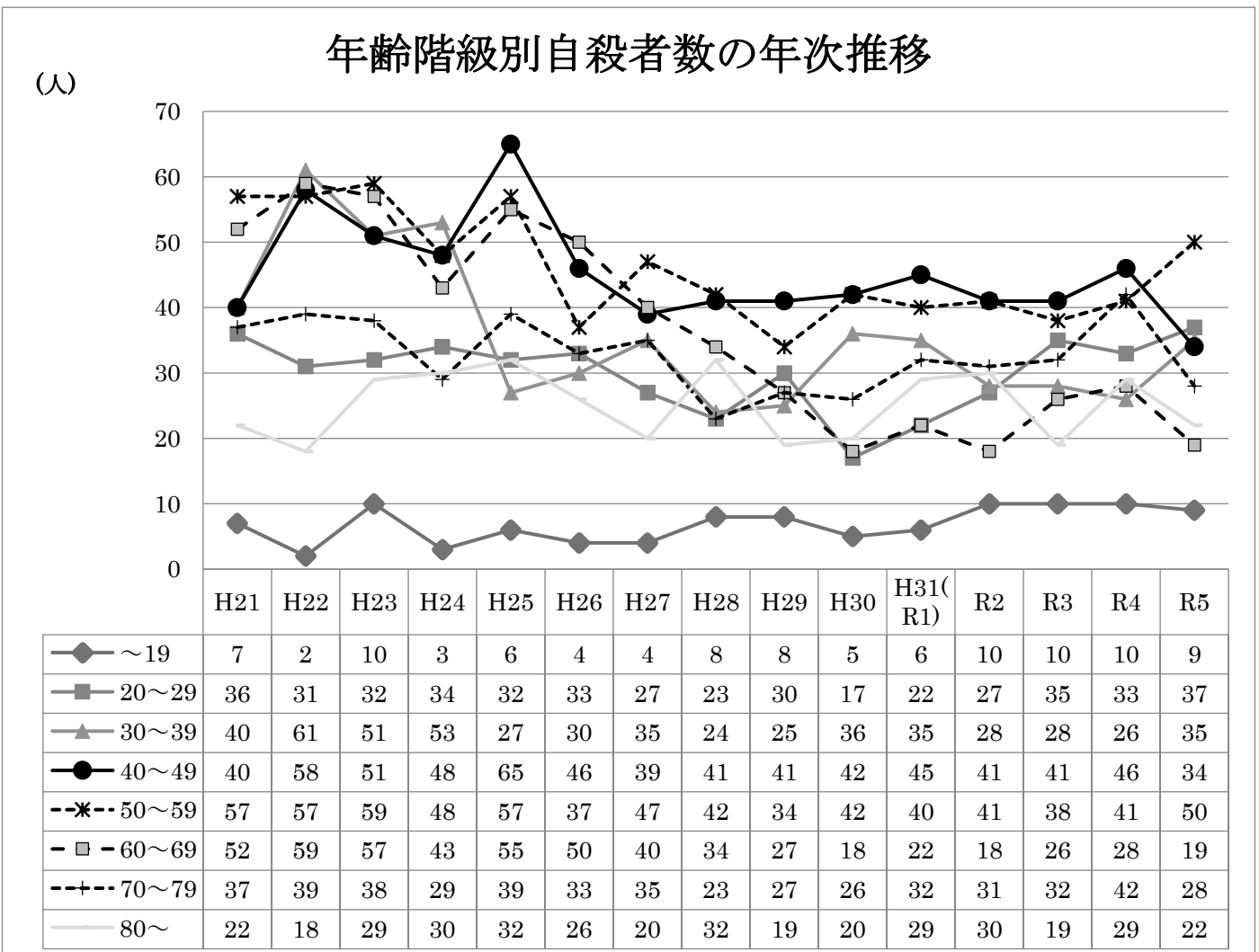


## ■ 滋賀県の自殺者について

滋賀県の自殺者は平成 25 年からは緩やかな減少傾向を維持し、200 人台で経過しています。令和 5 年は 234 人となり、3 年ぶりの減少に転じました。



地域における自殺の基礎資料より精神保健福祉センターが作成



地域における自殺の基礎資料より精神保健福祉センターが作成

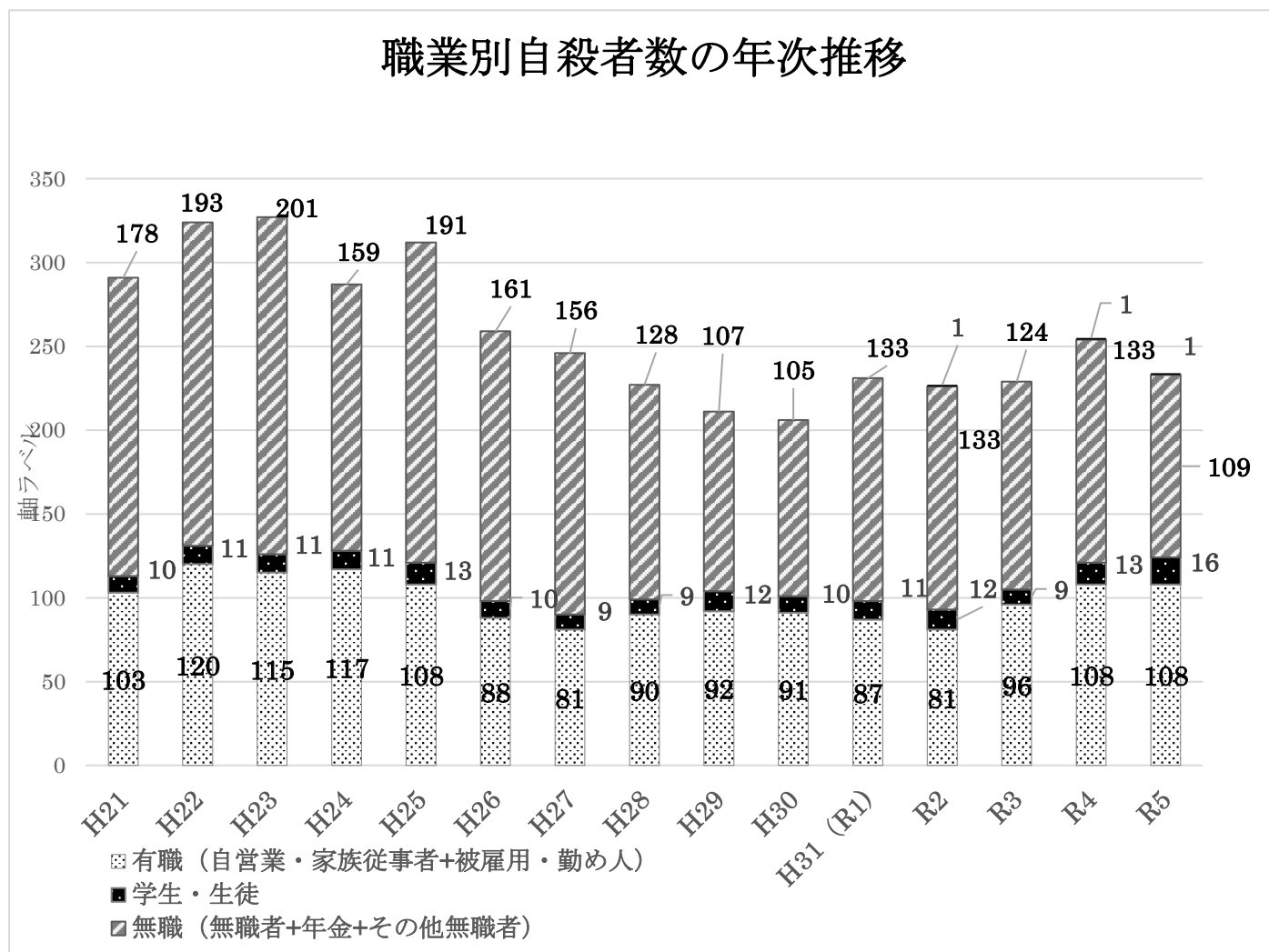
## ■ 令和5年死因順位別にみた年齢階級別死因割合

10歳から39歳までの死因の1位は自殺であり、40歳から54歳は第2位が自殺です。

年齢階級	1位	率	2位	率	3位	率
10～14歳	自殺	25.0%	悪性新生物	25.0%	その他死因	12.5%
15～19歳	自殺	50.0%	不慮の事故	18.8%	悪性新生物/心疾患 (高血圧性を除く)	12.5%
20～24歳	自殺	66.7%	悪性新生物	10.3%	不慮の事故	10.3%
25～29歳	自殺	64.7%	悪性新生物	11.8%	その他の神経系の 疾患	11.8%
30～34歳	自殺	51.7%	悪性新生物	10.3%	心疾患(高血圧性を 除く)/脳血管疾患	6.9%
35～39歳	自殺	34.6%	悪性新生物	28.8%	脳血管疾患	7.7%
40～44歳	悪性新生物	37.7%	自殺	18.8%	心疾患(高血圧性を 除く)/脳血管疾患	8.7%
45～49歳	悪性新生物	29.0%	自殺	16.9%	心疾患 (高血圧性を除く)	13.7%
50～54歳	悪性新生物	36.1%	自殺	14.9%	心疾患 (高血圧性を除く)	13.9%
55～59歳	悪性新生物	40.9%	心疾患 (高血圧性を除く)	11.8%	脳血管疾患	7.2%
60～64歳	悪性新生物	41.7%	心疾患 (高血圧性を除く)	16.1%	脳血管疾患	5.6%

## ■ 職業別自殺者数

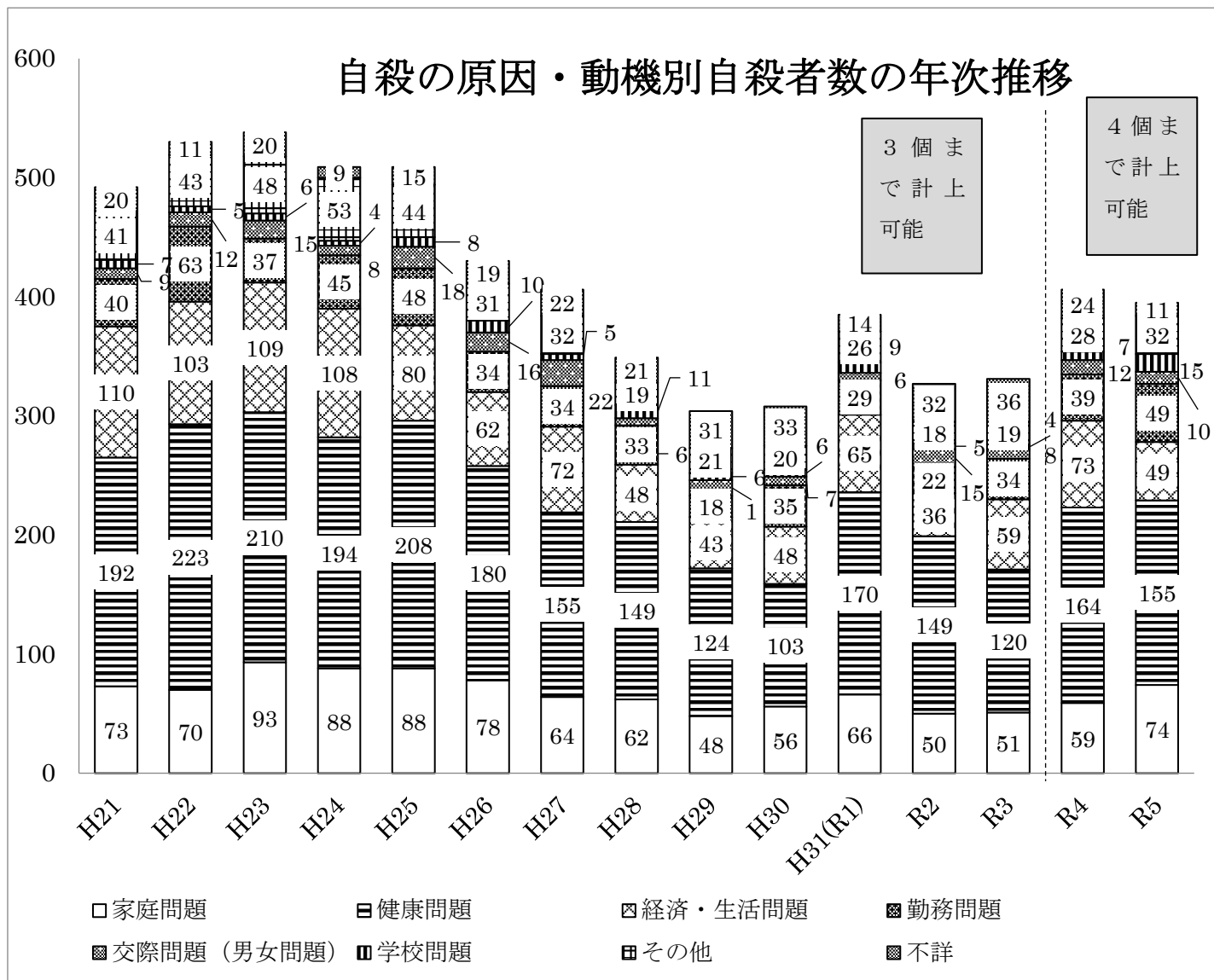
職業別の自殺者をみると、令和5年は有職者108人に比べ無職者が109人、経年の変化をみても、有職者に比べて無職者の自殺者が多い傾向となっています。また学生・生徒の自殺者数は横ばい傾向であり、令和5年は前年に比べて3人増え16人となり最高人数になっています。



地域における自殺の基礎資料より精神保健福祉センターが作成

## 原因・動機別自殺者数の年次推移

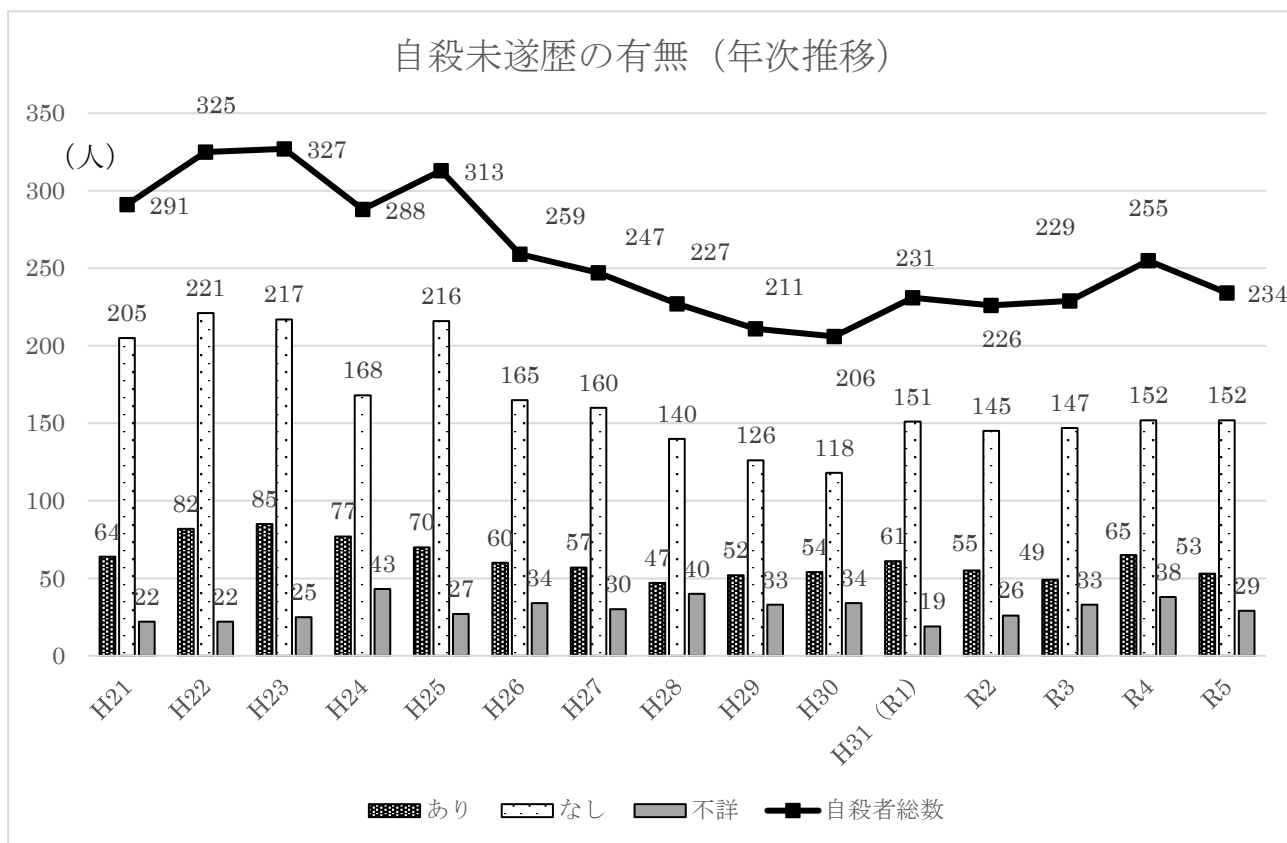
原因・動機別の自殺者数については、令和4年より原因・動機を最大4つまで（令和3年までは3つまで）計上しています。原因・動機別でみると、多い順に健康問題、経済・生活問題、家庭問題となっています。



地域における自殺の基礎資料より精神保健福祉センターが作成

## ■ 自殺未遂歴の有無別自殺者数の年次推移

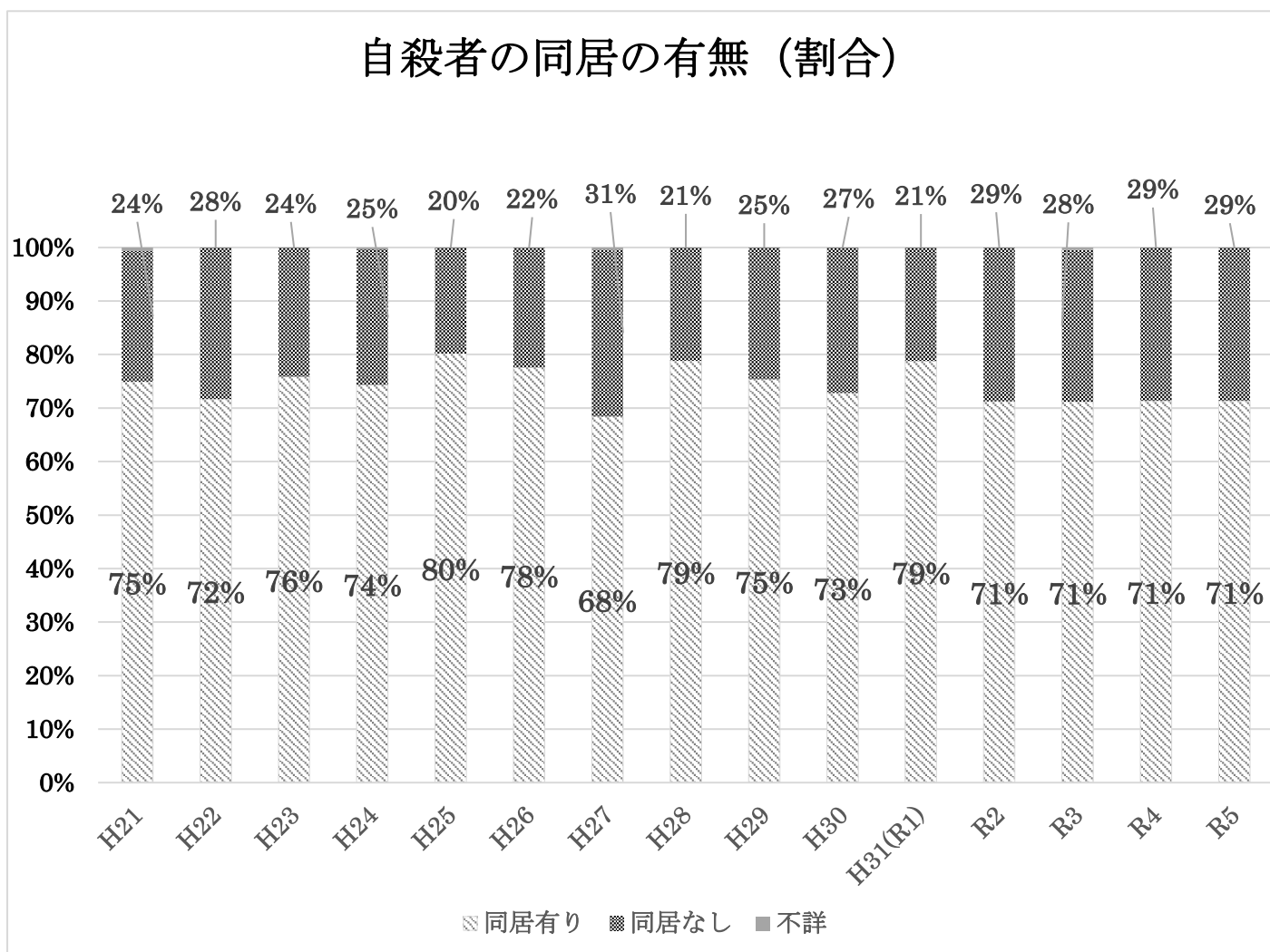
自殺者数における自殺未遂歴ありの人は、平成23年のピーク時より減少していましたが、近年横ばいで推移しています。



地域における自殺の基礎資料より精神保健福祉センターが作成

## ■ 自殺者の同居の有無

自殺者における同居の有無の割合をみると、同居有りが約 70%を占めています。



地域における自殺の基礎資料より精神保健福祉センターが作成